



特集

自転車の 似合うまち

風薫る5月。

新緑に包まれ、外で過ごすのが
気持ちよく感じられる季節の到来です。

今日は自転車に乗って
まちに出掛けてみませんか。

Photo: 北川原

自転車で まちを探検だ～！



栄 裕樹さん (32)
玲美さん (33)
礼王くん (7)
星七くん (5)
真生くん (3)

栄家では、自転車が単なる「移動手段」を超えて、コミュニケーションツールとして活躍中。

誰もが経験した「補助輪なし自転車に乗る練習」。礼王くんは5歳の時に体験。松前公園で裕樹さんと一緒に練習しました。「何回こけても、くじけず『やる』ってえらかった。心が強くなりました」と裕樹さん。礼王くんは「難しかったけど頑張ったよ」とにっこり。それを見ていた星七くんも4歳のときにマスター。二人の行動範囲はどんどん広がっています。行動範囲が広がると、心配になるのが交通事故。「親の背を見て子どもは育ちますよね」と裕樹さん。一緒に自転車に出掛けるこ

とで、子どもたちに交通ルールを学ばせています。「自転車大好き。速くてカッコいいし、遠くに行けるもん」と瞳を輝かせる礼王くん。「また探検に行く」と星七くんはにっこり。「そうだな、真生が大きくなったらママも一緒にみんなで行く」と裕樹さんもうれしそう。

「自転車は、目的地に行くだけでなく、移動が楽しいべきだと思っんです。自転車が楽しいと、見える景色も変わる。子どもたちと一緒にペダルをこぎながらいろんなことを感じ続けたい」

自転車は、子どもたちが最初に手にするのでできる移動手段。しかし、単なる移動手段としてだけでなく、自力で進む楽しさや達成感など、子どもたちはたくさん感じています。心も体も豊かにしていきます。

松前町には、礼王くんや星七くんのように、自転車で探検に出掛けることを楽しんでる子どもたちがたくさんいます。冒険道具を手に入れた子どもたち。どんどんまちへ出て、新たな発見や出会いをし、まちを身近に感じています。

自転車の魅力ってなんでしょう。

それぞれの自転車ライフを

レポートしながら

その魅力に迫ります。

子ども×自転車

子どもにとって自転車は、
夢や希望をかなえる「冒険道具」だ！



子どものころ、どこに行くのも自転車だった時代、小さな路地を知り、まちに暮らすさまざまな人に出会い、まちの匂いを感じていました。自分でこいで遠くまで移動できる自転車。子どもたちにとって「最速」の乗り物の自転車は、夢や希望をかなえる最強の「冒険道具」です。

「パパ、まち探検に行こう」

週末になると、自転車で探検に出掛けることをねだる栄礼王くん(7)と星七(5)くん。西古泉の自宅から、松前公園に行ったり、土手を走ったりと、ペダルをこいで町中を走るのが大好きな兄弟です。夏には、虫取り網と虫かごを持ってサドルにまたがり、まち探検は虫取り探検に早変わりします。

3人で出掛けるようになったのは、父・裕樹さん(32)が自転車好きだったことがきっかけ。休日に自転車に出掛ける裕樹さんを見て、「僕も行く」と子どもたちが付いてくるように。

その頃、礼王くんは補助輪付き自転車、星七くんは三輪車でした。今では二人とも一人前に自転車を乗りこなし、一番下の弟の真生くんはお兄ちゃんたちが愛用した三輪車に夢中です。

要チェック

子どもには、自転車を運転するときの怖さと義務も教えよう

楽しいはずの自転車も、ルールを守らなければ、「楽しくないこと」が起きてしまいます。子どもに自転車の乗り方を教えるときは、運転する怖さと義務を教育することが大切です。

伊予交通安全協会は、町内の小・中学校で年度初めに「自転車教室」を開催し、自転車の点検整備や自転車の正しい乗り方の指導をしています。



岡田中学校では4月12日に実施。伊予交通安全協会岡田支部の皆さん、伊予警察署、駐在所の署員らの指導のもと、生徒たちは運動場で実地走行を行い、自転車走行に必要なルールやマナーを確認しました。

●自転車保険

子どもの失敗でも、損害賠償額が少なくなることはなく、保護者の責任が問われることがあります。車には自賠責保険がありますが、自転車にはありません。しかし、自転車でも事故を起こせば車と同じくらい責任が生じます。そこで、加入しておく安心なのが「自転車保険」です。任意加入のため、詳細については保険会社や自転車店などにお問い合わせください。

◎町民課コミュニティ係 ☎985-4228



オトナ×自転車

エコ、節約、健康だけじゃない、
毎日にもっと彩りを！ 大人と自転車のいい関係

大人になると、子どものころあんなに夢中だった自転車に乗らなくなりませす。車やバスなど、楽な移動手段に慣れてしまっからでしょう。そんな中、最近では、敢えて自転車を選ぶ大人も増えています。

筒井の宮内隆司さん(36)もその一人。自宅から約7キロ離れた職場まで、愛車のロードバイクで通っています。自転車通勤を始めたのは2年前から。運動不足を解消しようとしたのがきっかけでした。

「通勤する時間がなかったから、通勤に自転車を使えば、朝と晩2回も運動ができると思っ。それに自転車って楽しいし」と笑います。いかに自転車乗りらしい通勤スタイルは「動きやすい」はもちろんですが、「安全のため」。目立つ色のウェアは、視覚的効果が大きく、車からも視認されやすいからです。特にヘルメットは、車道走るのにとっても大切です。「職場の人に『どしたん?』って言われることもあるけど、このスタイルが一番」と話す宮内さんは、気に入ったスタイルで、自転車通勤を満喫中

ルで、自転車通勤を満喫中

車で15分の通勤距離。自転車にすると時間がかかるかと思いきや、渋滞知らずの自転車は、まちをスイスイ。通勤時間はほぼ変わりません。

「自転車だと職場で着替えるので、その分早く起きないといけないけど、仕事前に合いが入る。ガソリン代も節約できる」と宮内さん。おかげで自転車通勤は続き、運動不足は解消。ウエストが引き締まりました。それだけでなく、職場に着いてからもなんだか頭がすっきりして、仕事はかどると言います。

「最初はしんどいけど、慣れてくると、いろいろなものが見えてきます。車だとさっと通り過ぎる風景、気にも留めなかった何気ない景色に目がいくようになりました。忘れていたもの、見落としていたもの、時間の流れや自然を体で感じられるのが気持ちいい」
今では、休日にも友人とロングライドに出掛けるほどで、10月には石鎚山ヒルクライム(自転車レースの一種で登坂の速さを競うもの)に出

場予定。ランニングや筋トレもするようになり、どんな体力がなくなるなど、自転車を始めからいろいろなところに変化が出てきた宮内さん。1番の変化は、子どもとの向き合い方だと言います。

「今までは、休日に『サッカーしよう』と子どもに誘われても、仕事の疲れから家でゴロゴロ。でも、体を動かすようになってから心にも体にも余裕ができて、さっと動けるようになりました。それに僕がヒルクライムの練習をしてると、見ていた子どもがいろいろな面で一生懸命頑張るようになってきました」と微笑みます。

「最初はしんどいけど、慣れてくると、いろいろなものが見えてきます。車だとさっと通り過ぎる風景、気にも留めなかった何気ない景色に目がいくようになりました。忘れていたもの、見落としていたもの、時間の流れや自然を体で感じられるのが気持ちいい」

大人と自転車の付き合いには、毎日をもっと彩る魅力があふれています。

自転車で心も体もリフレッシュ

宮内隆司さん (36)
会社員・筒井



自転車通勤歴2年。今では休日にもロングライドに出掛けるほどロードバイクに夢中。10月には石鎚山ヒルクライムにも出場予定。

要チェック

自転車と歩行者の事故が増加！ 自転車は「車両」という意識を忘れずに

県内の交通事故件数が減少している中、自転車事故は増加傾向にあります。今年1月には、松山市で高齢者が中学生の運転する自転車にはねられ死亡する事故が発生するなど、特に、自転車と歩行者の事故が問題となっています。

平成23年中の自転車対歩行者の事故件数は、10年前の3.8倍。自転車でも、一歩間違えば重大事故につながります。自転車も「車両」だという意識を常に持ち、適切で安全な運転を心掛けましょう。

● Interview
伊予警察署交通課 入江 二郎 係長



車に対しては、被害者になることが多いですが、自転車が加害者になる事故も多いのも事実。事故に合わないよう、事故を起こさないよう、私からは3点お願いします。

- ①自転車の点検整備をする プレーキとライトの点検をしてください。
- ②通行方法を守る 自転車は車両です。通行は、車道が原則です。車道は左側を通行しましょう。
- ③禁止行為をしない 「並進」「二人乗り」「傘さし運転」など、自転車には禁止行為があります。正しい自転車の乗り方を心掛けてください。

シニア×自転車

いつも助けてくれる相棒、
これからもずっとステキな自転車生活！

年を取ると、人は次第に車の運転を卒業していきます。高齢者にとって、徒歩より楽に、遠くへ移動できる自転車は、日常生活を助けてくれる相棒です。



「あれ、シズエさん、どこ行きよん？」
「ちょっと散歩よ。フジエさんは畑行きよん？」
「今日も自転車で元気なねー」
池内シズエさんにはったり会ったフジエさん。
立ち止まっておしゃべりに花を咲かせました。

へと急いでいる慌ただしい道の上を、ゆったりと、歩くような速さで進む自転車。まるでそこだけ、周りとは違う時間が流れているよう。荷台には、消毒液を入れた重い農業道具を積み、ギイコ、ギイコと進んでいきます。

らどこにも行けん。自転車はええよ。道が舗装してあるけん走りやすい。坂もないし。私らのまちは年寄りに優しい。景色もきれいじゃ」とこり。

自転車歴は70年以上。乗り始めたころは、自転車に乗る女性ほとんどいなかったそう。で、「私が自転車で田んぼに行ったら、みんなたまげとった」と振り返ります。

気が向いたらこの自転車で畑に出掛けると言います。「うちにおるより出掛けよったら楽しい。自転車で行きよって、人におうたら止まっておしゃべり。それがまた幸せ。でもお天気の良い日と、自分の気持ちがいい日にしか行かんよ」と可愛らしい笑顔を浮かべます。

自転車で 畑も買い物も楽なよ～

自転車の似合うまちへ

それぞれの自転車ライフをポートすると、自転車は、どの世代でも楽しめる乗り物だということが分かります。特に松前町は、山がなく、道が平坦なので、フジエさんのようなおばあちゃんにとってもペダルをこぎやすい、「自転車の似合うまち」です。

自転車は、生活に密着した実用的な乗り物。乗る人を選ばないシンプルな機能で、長年愛用できます。最近の自転車ブームでは、ロードバイクやマウンテンバイクにみる高性能さなど、機能に注目されることが多いですが、自転車の気持ちよさは、乗る道具もさることながら、走る道によって決まることが多いものです。

松前町は、海と川があつて、山がなく、コンパクト。河川敷や海岸なら、景色が良くて最高にいい。ふらっと立ち寄って、ちよつと路地裏を抜けて出会う人は、皆きつとあたたかいはず。みんなが交通ルールを守れたなら完璧です。

さあ、今日は、自転車の似合うまちへ出掛けませんか。

要チェック

愛媛県自転車安全利用5則

- 1 自転車は、車道が原則。歩道は例外
- 2 車道は左側を通行
- 3 自転車歩行者専用歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行
- 4 安全ルールを守る
 - 飲酒運転・二人乗り・並進の禁止
 - 夜間はライトを点灯
 - 交差点での信号遵守と一時停止・安全確認
- 5 子どもはヘルメットを着用

自転車盗難対策3つのポイント

- ① こまめに鍵かけ
- ② 防犯登録をしよう
- ③ ツーロック

水口 フジエさん
(87)・神崎



自転車歴70年。フジエさん愛用の「三輪車」は、息子さんがプレゼントしてくれたもの。畑仕事に、買い物に、通院にと大活躍中。